

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：もみじ第二保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：福田 博幸	定員（利用人数）：80名 （利用人数：80名）
所在地：〒227-0064 横浜市青葉区田奈町51-15	
TEL：（045）982-0787	ホームページ： https://momiji-aoba.or.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1998年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 博愛福祉会	
職員数	常勤職員：9名 非常勤職員：16名
専門職員	園長：1名 主任：1名
	保育士：19名 保育補助：4名
施設・設備 の概要	保育室：5室 トイレ：5ヶ所
	調理室・厨房：1ヶ所 事務室：1室
	屋外・園庭：有 屋外・他：屋上

③ 理念・基本方針

【保育理念】

『いのちのリレーをサポートすること』

祖父母から父母へ、父母から私たちへ 私たちから子どもへ
子どもから孫へ、伝えよう命のバトンいつまでも…

【基本方針】

あいさつできる子 元気な子!!（規律）

なんでもたべる子 じょうぶな子!!（食育）

みんなとなかよし やさしい子!!（人間関係）

養護と教育を一体的に支援し健康でかつ情緒が安定する環境のもと健康・人間関係・
環境・言葉・表現の各領域で教育し

“生きる力”の基礎となる心情・意欲・態度を育む

【保育目標】

地域と共に歩み 心身の調和のとれた人間形成

第一期～新しい園生活に慣れ喜んで登園する

第二期～いろいろな事に興味をもち あそびを広げていく

第三期～様々なあそびの中で十分に身体を動かす

第四期～身近な経験を積極的に取り組み自分の力を発揮する

④ 施設・事業所の特徴的な取組

田園都市線田奈駅から10分、長津田駅から15分の近くには田園風景の広がる住宅街
に位置しています。

隣接する小学校との交流事業をしたり、地域との関わりも多い環境の中、発達段階に

合わせた年齢別カリキュラムにより保育をしています。

【生活リズムをしっかりつくり 基本的な生活習慣を身につけ、毎日の生活の中でたくさん経験をする】

0.1.2歳児クラスは、担当児制を行い愛着関係を築き生活リズム（朝早く起き、朝ごはんをしっかり食べ元気にあそび、夜はぐっすり寝る）を作ることを一番に発達段階にあわせ保育をすすめています。戸外へも積極的に出るように心がけています。

3.4.5歳児クラスは基本的な生活習慣をしっかり身につけ、生活の知恵を教え、自分でできることは自分です。見て、聞いて、理解し行動することをねらいに、集中するときは集中できるようにする。体操、英語、音楽等を保育の中に取り入れ様々な経験の中で自分の好きなことをみつけ自発的に行動できる意欲を身につけたり、外部の講師を通し保育園の先生以外の人とかかわる経験をしています。

【グループ園との交流・土曜日共同保育を実施】

法人内のグループ園と交流を行っています。互いの園を行き来する機会をつくっています。園児だけでなく、法人内の職員と一緒に研修を行い保育技術を向上し、日々の情報交換もできる場を作っています。

土曜日の共同保育は法人内のグループ3園で実施しています。職員は各園の混合でグループでの勤務体制で4週に1回の出勤（概ね月3回の週休2日となる）となっています。3園それぞれの職員が保育の情報交換の場となっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年9月1日（契約日）～ 令和6年4月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2015年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 恵まれた環境と子ども中心の保育により生きる力を育てています
担当制などで子ども一人ひとりの状況や特徴を把握し、子どもの気持ちに寄り添い、信頼関係を築きながら保育をしています。子どもが自主的・自発的に生活と遊びができるように、園庭や砂場、そうさんのすべり台がある広場等を年齢や時間を分けて使い、各年齢の発達段階に合わせて、より身体を動かす遊びを自ら見つけて遊べるように援助しています。近隣の公園やたんぼなどで身近な自然と触れ合っています。室内ではコーナーで自主的・自発的に遊びを選んで遊べるようにしています。職員は子ども一人ひとりの違いを尊重して、前向きな声かけに気を配り、次の活動への楽しさを伝えることを心がけて保育を行っています。

2) 職員のスキル向上に対する意欲が高く、園内研修等で保育技術を高めています
職員のスキル向上のための研修体制が整えられています。法人共通の入職時研修や2年目研修をはじめとして、経験年数などに応じた研修制度や年1回法人系列園合同で実施する研修によりタイムリーなテーマで学ぶ機会が多くあります。園内研修も毎月計画し、保育技術や保健衛生、食育、その他のカテゴリーごとにさまざまなテーマで実施しています。職員は園の「質の向上体制」を評価し、園の研修をもとに、スキル向上に対し意欲をもって臨んでいます。

3) 中・長期計画や単年度事業計画の明文化と周知が期待されます
法人のめざす理念・方針の実現に向けて、長期的なビジョンが運営会議などで話し合われています。法人の理事会で中期的な展望も踏まえて、園の収支、人員確保につい

て伝えていますが、しかしこれらの長期的なビジョンや中期的な計画が文書化されていません。年度ごとの計画の明文化にも至っていません。今後は、園の中・長期計画を明示し、単年度事業計画に展開した計画策定と振り返りの事業報告が期待されます。年度の課題や達成目標、具体的施策を示すことにより、関係者と共有し協力につながることを期待されます。

4) マニュアル類の体系的なファイリングと定期的な見直し体制が期待されます
「職員基本マニュアル」にデイリープログラムをはじめ、指導計画や児童票の記入方法など日常の保育についての手順を明文化しています。法人で行われる共通研修や園内研修で配付される資料もファイリングされ、事務室に設置して活用しています。職員一人ひとりがマニュアルなどをファイリングして携帯し、より良い保育に努めています。マニュアル類は体系化し整理されていないため、改定前後がわかりづらく、また定期的な見直しも課題になっています。職員も入職時期によって配付資料が異なっているなどで、ファイリング内容にも個人差がある状況です。情報の共有、手順の統一による保育の質の向上のため、今後、マニュアル類を体系化し、ファイリングを標準化することが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

評価受審にむけて、職員は自己評価をしました。
次に少人数のグループに分かれ、担当した項目について取り組みました。
まず、自己評価をし自分の職務に対しての姿勢を見つめ、次に少人数グループで取り組んだ項目では、自分の思いのみにとどまらず、他の仲間職員、すなわち日々の保育をすすめているチーム人の意見や思いを聞き、自分を高め広げていく機会としました。
課題については、保護者からの意見等をしっかりと受けとめ、受容し、園として職員全員が共有をし、改善に向けて一丸となり、日々の保育業務に邁進していくことにしました。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり